

令和6年度学校評価より

昨年度と比較し5%以上の変動のあった項目について

	児童 質問	A+B (%)	保護者 質問	A+B (%)	項目	考察	今後の取り組み	
確かな学力	(1)	77.8	(23)	87.3	学校での読書	朝の本の貸し出しや図書室の本を学級文庫として学級に置いている。多様な活動に取り組んでいるが、高学年の図書室利用が低い。	図書室の本を学級文庫として貸し出すことを継続する。先生による読み聞かせなど、図書に親しむ機会を計画していく。	
	(2)	61.1	(10)	18.3	家庭での読書	児童の評価では週に本を1冊以上読んだ数値である。学校の読書推進活動への理解があるものの、我が子への評価は低い。	「家読(うちどく)」の取り組みを継続し、保護者が一緒に読書に取り組む家庭を増やしていく。	
	(5)	91.3			授業で自分の考えを伝える	昨年度より7.5%上昇し、9割の児童が肯定している。タブレットによる発表の機会が日常的になってきている。	タブレットを日常的に活用することで、特別な学習ではなく、発表等の選択肢の一つとしてとらえていく。手書きの新聞作成など発達段階を捉え、多様な表現活動を経験させる。	
				(8)	85.9	家庭で宿題をする習慣	出された課題に対しては、真面目に取り組む、保護者もその姿を認めている。	宿題に取り組む習慣から、進んで学習へと学びを進めていくために、タブレットの有効利用が考えられる。
	(12)	59	(9)	33.8	ラインズや自主ノートなどでの進んで学習	昨年度の75%から大きく下降している。学年が上がるにつれて、進んで学習していると回答する児童の数が減っている。	タブレットの持ち帰りを進め、オンラインドリルを有効活用する。	
豊かな心	(16)	89.7	(14)	90.1	友達に優しく 友達と仲良く	ありがとうカードやピア・サポート活動に取り組んでいるが、児童の割合は減っている。数値を人数にすると約6名減である。	ポジティブ教育に引き続き取り組み、自分の良いところ、友達のよいところを意識できるようにしていく。ソーシャルスキルを取り入れることによって、相手を大切に考えて行動できる態度を育てていく。	
	(18)	88			他の学年と仲良く	異学年交流の機会を増やし、振り返りやメッセージ交流などを進めてきたが、数値に表れていない。	異学年交流は、今後も継続していく。	
	(19)	85.7	(6)	88.7	学校は楽しい	「学校が楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が昨年度よりも減っており、保護者の数値も同様に低下している。	引き続き、「魅力ある学校づくり」「ポジティブ教育」に取り組む。異学年交流を計画的に取り入れていく。学校行事だけでなく、授業の中で楽しさを味わえるような場面をつくっていく。	
	(20)	90.5			みんなで何かするのは楽しい	昨年度より5%減っているが、9割と高い数値を維持している。	協力することの大切さや、みんなでやり遂げる達成感などを味わわせる機会をつくっていく。	
	(21)	82.5	(16)	60.6	自分のよいところ	児童の数値は微増しているが、保護者の数値は10%以上も減っている。	我が子のよさを家庭内で共有できるような機会を教育活動の延長として設けられるとよい。	
健康な体	(23)	94.4	(12)	70.4	家での歯磨き習慣	児童の数値が増え、家での歯磨きの習慣が身につけている。一方、保護者はそのように捉えていない。	保健だよりや親子での歯の染め出しによる保護者への啓発を継続していく。	
	(24)	86.5	(1) (2) (3)	67.6 83.1 93.0	早寝・早起き・朝ご飯	児童の評価も増加し、保護者の数値も高い。一方で、就寝時刻が22時を過ぎている児童も見られる。	児童自身に「早寝・早起き・朝ご飯」の効果を伝え続けていくとともに、学校だよりや保健だより等で保護者に呼びかけていく。	
	(25)	68.3	(11)	57.8	スマートルール	昨年度の81.6%から68.3%と激減している。対して、きまりを守っていると捉えている保護者は10%以上増えている。	SNSに関する指導を、長期の休み前に計画的に行ったり、保護者・家庭への啓蒙を継続していく。専門家による出前授業などを計画していく。	
地域連携			(18)	74.6	交通ルール	大きな事故の報告等はなかったが、保護者には危険な場面や様子が見られている。	交通安全教室や自転車教室の開催の際に、多学年にも呼びかける。長期休暇の前には生徒指導より交通ルールの大切さを伝える場を設ける。	
			(21)	91.5	ICT機器の積極的利用	学校の情報発信の他、おたよりの配信や保健指導の協力、授業での発表の様子の動画配信などが認められている。	学年の偏りをなくし、学校全体でICT機器の利用を進めていく。	
			(26)	98.6	情報の発信	学校だより「大関のこども」だけでなく、各学年の活動の様子を週1のペースで写真とともに報告したことにより、大変高い数値が見られた。	引き続き、Home&Schoolを活用し、その週の学級の様子を保護者に伝えていく。さらに、保護者だけでなく、学校ボランティアの方々にも学校の教育活動の様子を伝えていけるとよい。	